

主演
ももいろクローバーZ

幕 が 上 が る

私たちは、
舞台の上でなら
どこまでも行ける。

百田夏菜子 玉井詩織 高城れに 有安杏果 佐々木彩夏
ムロツヨシ 清水ミチコ 志賀廣太郎 黒木華

監督：本広克行 脚本：喜安浩平 音楽：菅野祐悟 原作：平田オリザ『幕が上がる』（講談社文庫刊）
主題歌：ももいろクローバーZ『青春賦』（EVIL LINE RECORDS）

製作：フジテレビジョン 東映 ROBOT 電通 講談社 バルコ 制作プロダクション：ROBOT
特別協力：青年団 全国高等学校演劇協議会 後援：公益社団法人全国高等学校演劇協議会
配給：ティンジョイ 配給協力：東映 ©2015 平田オリザ/講談社/フジテレビジョン 東映 ROBOT 電通 講談社



『踊る大捜査線』シリーズの本広監督が、人生をかけて描く青春映画

主演 **ももクロ** × 監督 **本広克行** × 原作 **平田オリザ** × 脚本 **喜安浩平**

すべての世代に贈る青春文学の金字塔、映画化。

私は行きたいです、君たちと。
行こうよ、全国！

地区予選敗退。最後の大会を終えた先輩たちに代わり、部長として富士ヶ丘高校の演劇部をまとめることになった高橋さおり（百田夏菜子）。「負けたらヤなの！」と部員の前で意気込むさおりだが、悩める日々が続く。「どうやったら演技が上手になれるの？ 演目は何にすればいいの？ わからないー！」

そんな時、学校に新任の吉岡先生（黒木華）がやってきた。元学生演劇の女王だったらしい！？ 美人だけちょっと変わったその先生は、地区大会すら勝ったことのない弱小演劇部の私たちに言った。

「私は行きたいです。君たちと、全国に。行こうよ、全国！」

気迫に充ちたその一言で、彼女たちの人生は決まる。演目は「銀河鉄道の夜」、演出は部長のさおり。演じるのは、看板女優でお姫様キャラの“ユッコ”（玉井詩織）、黙っていれば可愛い、“がる”（高城れに）、一年後輩でしっかり者の“明美ちゃん”（佐々木彩夏）、そして演劇強豪校からのスーパー転校生“中西さん”（有安杏果）らの部員たち。吉岡先生と、頼りない顧問の溝口（ムロツヨシ）と共に、富士ヶ丘高校演劇部は、見たことも行ったこともない、無限の可能性に挑もうとしていた。

この春、あなたの幕が上がる。

いまを生きる。いまを演じる。
新たな青春映画の誕生。

「私の集大成になることは間違いないでしょう。」

本広克行監督

映画監督をやめようと思いついた時期もあった本広監督。世界的な劇作家であり演出家の平田オリザが主宰する劇団「青年団」に刺激を受け、その世界に傾倒したことが、小説『幕が上がる』との出会を生んだ。それは本広克行に再び映画を撮らせるための、かけがえのない出会いとなった。本広監督が主演に抜擢したのは、ももいろグロバーズの5人。「初めて小説『幕が上がる』を読んだとき、オリザさんに『ももいろグロバーズをイメージして書いたのでは?』と聞いてしまうほどキャラクターがメンバーに似ていました。」という本広監督に対し、平田オリザ氏は「正直、期待と不安の半々でした。」と応える。彼女たちは撮影前に、平田オリザのワークショップに通い俳優としての指導を徹底的に受ける。5人の「勤の良さ」に驚いた平田オリザ氏は伝える。「多くの観客の皆さんは、ももクロメンバーの演技力に驚くことでしょう。彼女たちは役者として驚異的な成長を遂げました。進化するアイドルが、もう一つ新しいステップに踏み込んだのです。」

脚本は『桐島、部活やめるってよ』で一世を風靡した喜安浩平。共演陣の顔ぶれも素晴らしい。学生演劇から発掘され、ベルリン国際映画祭の最優秀女優賞を受賞するに至った注目若手女優、黒木華が、演劇部を牽引する新任先生役に。鍛え上げられた演技力を惜しみなく発揮する。さらにムロツヨシ、志賀廣太郎、清水ミチコら、唯一無二の個性と実力を兼ね備えた俳優陣が世界を広げる。



makuga-agaru.jp

